

Kaga Electronics Group Report

第45期 中間グループ報告書

平成24年4月1日 - 平成24年9月30日



人、未来、エレクトロニクス…

 **加賀電子株式会社**

東証一部：証券コード 8154

宮坂 健《花の塔》

おかげさまで、45周年を迎えることができました。 気を引き締め、世界を舞台に新たな可能性を開拓していきます。

加賀電子グループ全体の中間期業績と今後について、塚本勲会長と塚本外茂久社長に話を聞きました。



代表取締役社長 塚本 外茂久

代表取締役会長 塚本 勲

Q1 当中間期の業績についてお聞かせください。

A エレクトロニクス業界は厳しい情勢に直面し、当社グループの業績は残念ながら減収減益となりました。

社長／当中間期（平成24年4月1日～9月30日）は、車載及び通信機器向けの電子部品・半導体やLED照明などの環境関連商品の拡販など、これまで以上に積極的な営業活動に注力してまいりました結果、車載関連や海外におけるEMS（注）の売上高が拡大しました。しかしながら、民生機器向け電子部品・半導体や国内アミューズメント関連ビジネス及びコンシューマ向け情報機器ビジネスなどの低迷により連結業績につきましては、売上高103,845百万円（前年同期比10.7%減）、営業損失470百万円（前年同期は営業利益771百万円）、経常損失355百万円（前年同期は経常利益895百万円）、四半期純損失は業績不振子会社における固定資産の減損処理及び繰延税金資産の取崩しを行ったことにより1,373百万円（前年同期は四半期純利益301百万円）となりました。

このような厳しい状況下ではありましたが、将来楽しみな事業がいくつも出てきています。

会長／特に自動車は、エレクトロニクス化がますます進み、私達が提案する電子部品や半導体を数多く採用いただいております、当社グループのカーエレクトロニクス分野は好調に推移しております。中でも安全性向上の観点から、カメラモジュールの売上高が

※本書におけるP1-4では、インタビューならではの口語調を活かすため「中間期」と記し、P5以降については「第2四半期」と表記しております。（注）Electronics Manufacturing Service製品の開発・生産を受託するサービス。

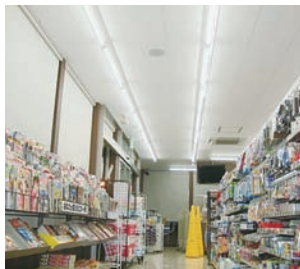
増加しています。今後も、グループ内の車載向けに特化した営業部門の強化を推進してまいります。
また、海外のEMSにおいては、事務機器向けや空調機器向けの売上高が伸長しました。昨年10月のタイの洪水でKAGA ELECTRONICS (THAILAND) のアユタヤ工場が浸水被害を受けましたが、いち早く海拔が高く洪水の懸念の少ないアマタナコンに工場を新設したことにより、当期は順調に稼動しております。

社長／前期に引き続き、環境関連分野に注力してきた結果、LED照明ビジネスは多数の引き合いをいただき、多くの成約につながっております。また、太陽光発電システムにおいては、電力会社が電気を買う「固定価格買い取り制度」がスタートし、売電事業に参入されるお客様が増え、成約率が高まってまいりました。来年3月末までは助成金など有利な条件が出ているため、すぐにパネルを設置し発電したいという多くのご依頼にお応えすべく、人員の補強をはかるなど体制を整えています。

今後は、会長が先ほど申しあげた車載関係のほか、通信、環境、メディカル関連をはじめ様々な分野で、電子部品や半導体がますます使われていくことが予想されますので、今後の業績向上に結び付けていくものと考えています。



●KAGA ELECTRONICS (THAILAND) アマタナコン工場



●LED照明導入例

Q2 エー・ディーデバイスによるエーエスデバイスの吸収合併について、その狙いをお聞かせください。

A 両社の持つ、人材・機能・販路を有機的に統合することでシナジー効果を発揮させ、ビジネスの拡大を目指します。

会長／平成24年7月1日付で東芝製半導体販売代理店で当社の子会社である（株）エー・ディーデバイス（ADD）が東芝セミコンダクター&ストレージ社の関係会社エーエスデバイス（株）（ASD）を吸収合併しました。ASDはカーエレクトロニクス分野を得意として、従来当社グループと自動車関係でお取引のなかった得意先を持っており、今後ますます増加傾向にある車載関連メーカーの海外生産移管に当社グループのグローバルサポート体制が充分機能すると判断しました。今回の合併により、シナジー効果が発揮できるものと大変期待しているところです。

社長／エレクトロニクス商社の数も再編の時期に入ってきており、強みがないと生き残れず、成長していけない時代です。我が社の強みは、世界に窓口があり、独立系であること、そして開発やものづくりまでできる技術力を持っているということ。そういう意味ではお客様のご要望になんでもお応えできるということは最大の強みだと自負しています。

Q3 注目されているインドでの状況はいかがですか？

A すでに新しい取り組みを進めています。

社長／ご承知のとおり、当社の子会社、加賀デバイス（株）が前年度インドに現地法人を設立しました。インド



は主に車と白物家電が中心ですが、事務所を設置したことによって幅広く現地の情報が入手でき、現地ならではのビジネスモデルを構築中です。電力事情が悪い現地では停電時に電力を供給する「無停電電源装置」(UPS^(注1))の部品や、インド特有の「ソーラー・ランタン^(注2)」という商品にも部品供給を模索中です。また、いち早くインドに進出したということが契機になり、日系企業から販売代理の商談など新たな引き合いも舞い込んできております。インドに進出してまだ1年あまりですが、地に足がついてきたなと感じています。

Q4 45周年を迎えましたが、過去を振り返り、成長してきた理由はどういうところにあると思われますか？

A 当社独自の営業の方法で、時代の変化をいち早くキャッチし、順応できたためだと思います。

会長／おかげさまで45周年を迎えることができました

た。創業時を振り返ってみますと、創業の地でもある秋葉原に、当時は電子部品を扱う商社が約1,000社ほどありましたが、現在は約200社ほどに減ってしまいました。当時はアナログの時代で、それが半導体の登場によってデジタルに変わり、そのデジタル技術を利用したIT(情報技術)に変わっていきました。当社が今、こうして45周年を迎えられたのは、ビジネスチャンスを逃さないように時代の変化に対応し、取り扱い商品を変え、技術力も備え、時代の流れに乗って順応してこれたということが大きな理由だと思えます。

社長／当時、秋葉原にあった電子部品を扱う多くの商社は、特定メーカーの代理店権を持ち、自社に在庫を置きながらお客様に店舗で売っていました。しかし、当社は、特定代理店権を持たず、先にお客様からご注文をいただいてから、商品を仕入れてお客様にお届けするという方法をとりました。つまり、自社に在庫を置いて「店舗で販売」というのではなく、お客様のところを訪ねてご注文を頂戴し、販売をしていました。そうすることで、お客様から最新の情報や顧客ニーズを入手し、営業活動に取り組めたことが当社の成長の理由だと思えます。

Q5 御社の社員教育も成長した理由かと思いますが、いかがでしょうか。

A 当社グループの行動指針もそうですが、やる気を起こさせるきっかけも重要な要素だと思います。

会長／探究心が旺盛で行動力を持った社員が多かったからこそ、今日に加賀電子グループがあると思っています。新市場に打って出たい、新商品を作りた、会社を作りた、と言ってくる社員に対して、「No」と言わない方針でやってきました。成功ばかりでなく、失敗もありましたが、多少損をしても、

(注1) Uninterruptible Power Supply：電池や発電機を内蔵し、停電時でもしばらくの間コンピュータに電気を供給するシステム。(注2) 太陽光発電により充電して点灯するランタン(手提げ提灯)。

それが良い経験となり、次の展開に役立っていくのもです。人はそうして育っていくのです。経験からそう確信しています。

社長／会長はやる気を起こさせる叱り方が上手く、昔から社員に対して「頼むよ!」「お願いしますよ!」と声を掛けます。これは頼りにしている、期待している、だから頑張ってもらいたいということです。そう言われると、みんなが奮い立ち、モチベーションが上がるのです。こういったやる気を起こさせることが非常に重要です。

会長／節目の年である今年、原点に立ち返り、今後さらにも丸となって頑張っていこうということで全社員、一堂に会する機会を設けました。また、グループ全体の活性化を目指し、各ビジネスユニットの役員入れ替えも行い、新体制でスタートしております。グループ丸となり業績の挽回、向上に邁進してまいります。今後とも皆様のさらなるご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成24年12月



1968年、創業時の想いを いつまでも。

現在の秋葉原本社のすぐそばに、創業時の事務所が当時そのままの姿で、今なお残っています。当社グループの自社ブランド「TAXAN」の由来でもある、「たくさん売って、たくさん儲け、たくさんお客様に喜んでいただき、社員もみんなたくさん幸せになろう」という気持ちで、現在までやってきました。時代が変わろうとも、テクノロジーが進化しようとも、創業時からの想いは、今なお変わりありません。長きにわたり培われてきた精神であり、今や社風となり社員一人ひとりの心に根付いている「F.Y.T.」「3G」で、さらに大きな発展に繋がるよう、これからも心を新たにしていきたいと思います。



[経営理念]

すべてはお客様のために

[加賀電子グループの行動指針]

F.Y.T.
[ファイト]

Flexibility 柔軟性を持って
Young 心の若さを持って
Try 絶えず挑戦

3G

General あらゆるものを
Global 全世界で
Group 総合力を活かして

お客様のニーズ、変化を先取りし、 新技術、新製品をお客様に提供していきます。

創業以来、電子部品・半導体ビジネスを柱とし、飛躍的に成長発展してきた加賀電子グループ。当社グループの原点でもある、この電子部品及び半導体の供給を国内はもとより海外でもワールドワイドに行っているのがコンポーネントビジネスユニット（コンポーネントBU）です。本年4月より、取締役副社長兼コンポーネントBU長に就任した門良一が、加賀電子グループのコンポーネントBUの特長や展望などをご説明します。

●コンポーネントBUの強み — 長年の経験に基づく信頼の実績 —

当社グループのコンポーネントBUの特長は、独立系商社として、お客様が必要とされる電子部品や半導体を国内外の豊富な仕入先から調達できる体制を整えていることです。同時に世界各地に営業拠点や生産工場



取締役副社長兼コンポーネントBU長

門良一

などのグループ会社を多数持っているため、海外工場へ生産拠点をシフトするお客様に対してお手伝いが容易にできること。さらには、世界中の新技術や新製品を当社グループの専門部隊によるサポートを介して、どこよりも早くご紹介できること。ご要望があれば製

品の設計開発、生産、販売まで請け負えることが加賀電子グループならではの強みだと思っております。

もともと30年ほど前から、すでにお客様が必要とされる商品をまとめて一括納入する「キittingサービス」や、完成品を作って納めるEMSを競合他社に先駆けて行ってきました。お客様から「こういう物を作りたい」「社内ではここまでではできないけれど、ここはできない」などといった声にもお応えし、EMSの工場を持つと同時に、技術者を社内に配置するまでに至りました。現在では、お客様が望むものすべてをワンストップソリューションで提供できる万全の体制を整えております。

こうした長年の経験、実績に基づく当社グループ独自のビジネスは、おかげさまでお客様からの厚い信頼と評価をいただいております。

●注力している分野 — 車載、情報通信など —

急激に電子化が進む車載関連をはじめ、スマートフォン、タブレット端末などの情報通信や医療機器関連、そして市場が拡大している太陽光発電システムやLED照明など、環境関連を中心に、積極的な営業展開

を行ってきました。スマートフォンに使われる部品や、それをモジュール化した製品は数多くご採用いただいております。実は医療関係のAED（心臓救命装置）には3G通信モジュールが採用されているのですが、これは携帯電話用のモジュールをお納めしている過程でノウハウを培い、この分野に応用した事例です。

今後も、自動車や光学機器など様々な電子機器にモジュールや部品各種が使われることが予測され、コンポーネントBUの活躍の場が増えると期待しております。

●海外における活動進捗状況と展望 — 積極的な拡販活動を行っています —

前年度インドに現地法人を、マレーシア、インドネシア、フィリピンに事務所を開設し、それぞれ活発に売り込みを始めております。その中で、インドネシア、フィリピンでは日系企業からキittingのご注文を

いただき順調に進んでおります。これまでは日本で部品を揃えてから現地に送っておられたようですが、当社にお任せいただくことにより、時間もコストも抑えられるということでご注文をいただいております。

また、今年7月には加賀大連が青島に連絡事務所を開設しました。中国における電子部品や半導体ビジネスの拡大を目指します。そして、近くタイに事務所を開設することとなりました。タイにはすでにEMS工場を持っており、それとは別の形で日系の自動車メーカーの生産工場や光学機器メーカーに向け、部品の販売を行ってまいります。東南アジアのみならず、近い将来自動車関連企業が多く集まるアメリカ東部に事務所を開設したいと考えております。

私たちエレクトロニクス商社の活躍の場が海外にますますシフトしているため、積極的な海外進出及び当社グループの総力を結集し、ワールドワイドでの新規仕入先の開拓、新規顧客の開拓をはかってまいります。

●コンポーネントBUの特長とBU間の連携

ビジネスユニットの連携でお客様のあらゆるニーズにお応えしてまいります。

部品を集めたい

**コンポーネントBU
主体**

「部品を国内外から効率よく集めたい」というお客様に対し、世界中に張り巡らせた仕入先のネットワークから最新情報を基に世界最高水準の電子部品・半導体を集め提供いたします。

組み立てて欲しい

**コンポーネントBU+
マニファクチャリングBU**

「製品の設計から生産までを任せたい」とお望みのお客様に対し、コンポーネントBUはマニファクチャリングBUと連携し、開発・生産に関わるサポートをいたします。

販売して欲しい

**コンポーネントBU+
インフォメーションBU**

「実際に出来上がった完成品を販売して欲しい」とご要望のお客様には、インフォメーションBUが保有する多彩な販売チャネルの中から商品に合った全国の販売店での取り扱いをご提案いたします。

加賀電子グループは、エレクトロニクス総合商社として、つねにあらゆる可能性にチャレンジしてきました。当第2四半期におけるF.Y.T.精神に基づく様々な取り組みをご紹介します。

ファイト・スピリッツ #01

「エー・ディーデバイス」による「エーエスデバイス」の吸収合併

現在、自動車産業を取り巻く環境は生産の海外シフト化、新興国を中心とした消費のグローバル化、電気自動車に代表される製品の高機能化と、めまぐるしい変化と成長をしております。これまで、加賀電子グループとしても同産業を重点分野として、市場開拓に努めてまいりました。

加賀電子のグループ会社である「(株)エー・ディーデバイス」(ADD)は東芝の半導体製品を中心としてストレージ製品や各種電子部品を販売し、産業機器及び車載向けエレクトロニクス市場に対して強力にビジネス展開を進めております。

一方、「エーエスデバイス(株)」(ASD)は東芝

セミコンダクター&ストレージ社の関係会社として、東芝の半導体・液晶及びストレージ製品を車載向けエレクトロニクス市場に展開してまいりました。

ADDがASDを吸収合併することにより両社が持つ人材・機能・販路を有機的に統合し、また加賀電子グループの、世界に広がるグループ総合力を合わせることで事業価値をさらに高めることに資すると判断し、この度の吸収合併に至りました。

今後、ADDはさらに車載向けエレクトロニクス市場へのビジネス展開を強化し、2015年に売上高250億円を目指して邁進してまいります。

エー・ディーデバイスがエーエスデバイスを吸収合併

商号	(株)エー・ディーデバイス
代表者	石田修
所在地	東京都千代田区
設立年月日	1997年4月
事業内容	東芝製半導体・ストレージ製品及び各種電子部品の販売
資本金	301百万円
従業員数	66名

吸収合併

商号	エーエスデバイス(株)
代表者	福山健明
所在地	神奈川県川崎市
設立年月日	2007年4月
事業内容	自動車関連企業向け東芝製半導体・液晶及びストレージ製品の販売
資本金	100百万円
従業員数	24名

両社が持つ人材・機能・販路を有機的に統合

目標

2015年
売上高 **250**億円

戦略

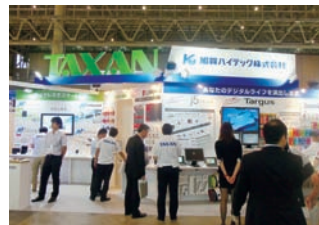
車載向けエレクトロニクス市場への
ビジネス展開強化

事業の拡大を推進

「CEATEC JAPAN 2012」に出展

加賀ハイテック㈱は、10月2日(火)から6日(土)までの間、幕張メッセで行われた「CEATEC JAPAN 2012」に出展しました。アジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展である同イベントにおいて、加賀ハイテックブースでは「あなたのDigital Lifeを演出する」をテーマに、自社製品のTAXANブランドのMéoシリーズや海外

ブランド製品のメモリーカードやウルトラブックのドッキングステーション、PC・モバイル製品のアクセサリなど魅力的な製品を展示しました。



●加賀ハイテックのモバイル新製品

加賀ハイテック㈱はCEATEC JAPAN 2012への出展に合わせて自社ブランド「TAXAN」のMéoシリーズの新製品発売を発表し、製品ラインナップの

充実をはかりました。加賀ハイテックは様々な商品を通して、スマートフォンやタブレット端末市場への拡大をはかってまいります。

TAXAN MéoBank SD

バッテリー内蔵のWi-Fi SD & USBリーダーライター

ワイヤレスストレージ機能とモバイルルーター機能が合体した新コンセプトの製品です。

(平成24年11月発売開始)



TAXAN MéoPower シリーズ

多彩なモバイル機器チャージャー

『高出力・急速充電』に特化した、モバイル機器チャージャーの新ブランドです。

(平成24年11月発売開始)



TAXAN MéoSound

振動式 Bluetoothスピーカー

振動式による10Wのハイパワーと迫力の重低音を実現。上部スピーカーからはクリアな高音を再生します。

(平成24年9月発売開始)



●MéoSound MS001

スティック型 Bluetoothスピーカー

持ち運びに便利なスティックデザイン!カバンやポケットなどにスマートに収納可能です。

(平成24年9月発売開始)



●MéoSound MS002

Siri対応の小型Bluetoothスピーカー

Appleの音声アシスタント機能『Siri』に対応した小型Bluetoothスピーカーです。

(平成24年11月発売開始)

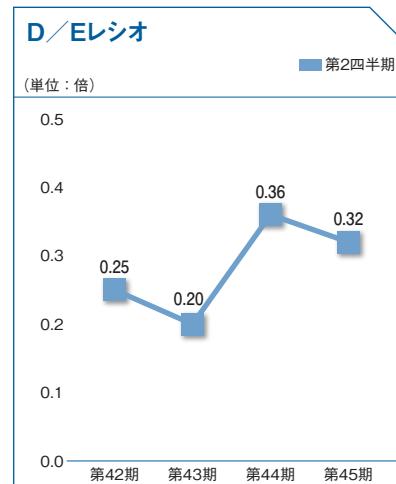
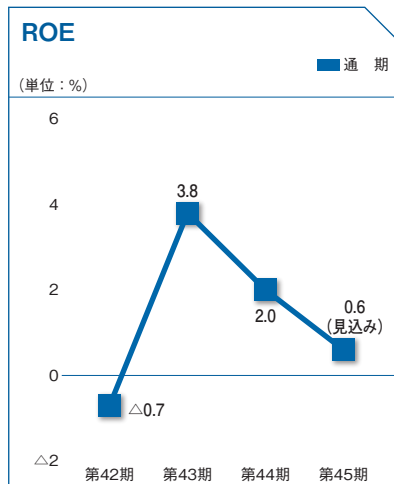
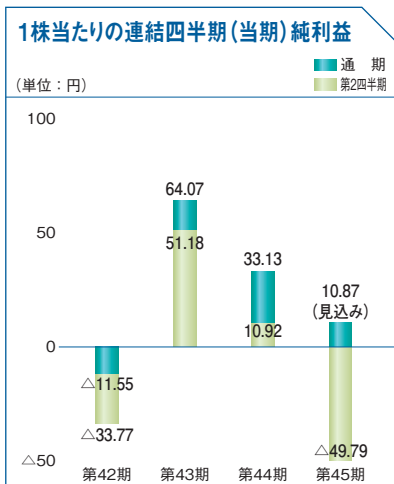
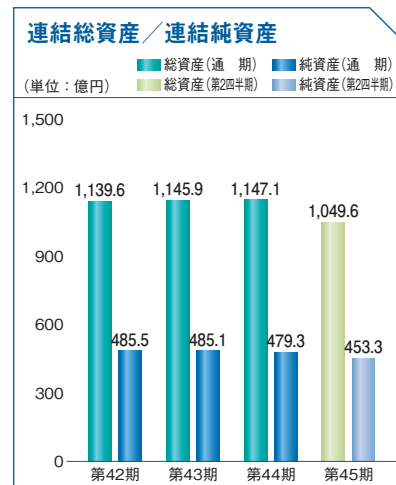
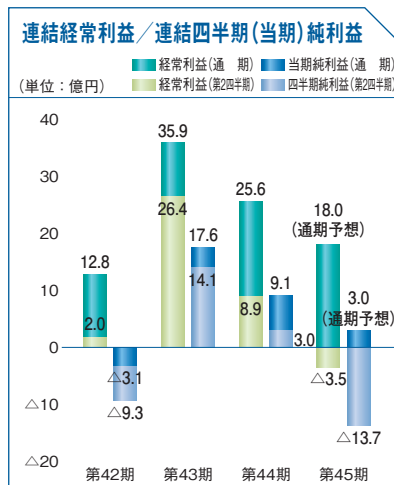
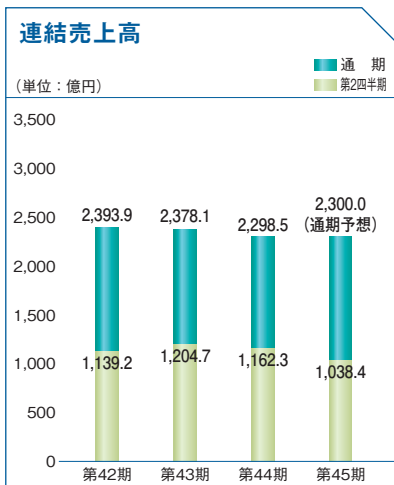


●MéoSound SR

連結売上高 **103,845**百万円
(前年同期比10.7%減)

連結経常利益 \triangle **355**百万円
(前年同期は経常利益895百万円)

連結四半期純利益 \triangle **1,373**百万円
(前年同期は四半期純利益301百万円)



ROE(自己資本利益率)は、株主の皆様への投資を活用した結果どのくらい利益を得たのかを示す指標です。
ROE(%)=当期純利益÷自己資本×100

D/Eレシオ(Debt Equity ratio)は、有利子負債と自己資本の比で、長期の支払い能力を示す指標です。
D/Eレシオ(倍)=有利子負債÷自己資本

四半期連結損益及び包括利益計算書 (単位: 百万円)

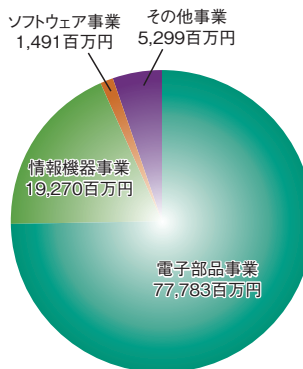
科 目	前第2四半期(累計) 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	当第2四半期(累計) 自平成24年4月1日 至平成24年9月30日
売上高	116,237	103,845
売上原価	101,913	91,515
売上総利益	14,323	12,329
販売費及び一般管理費	13,551	12,800
営業利益又は営業損失(△)	771	△470
営業外収益		
受取利息	32	20
受取配当金	44	42
受取手数料	105	117
その他	198	252
営業外収益合計	381	432
営業外費用		
支払利息	71	66
為替差損	134	188
その他	51	63
営業外費用合計	257	318
経常利益又は経常損失(△)	895	△355
特別利益		
固定資産売却益	11	4
投資有価証券売却益	187	—
関係会社株式売却益	—	6
その他	0	—
特別利益合計	199	10
特別損失		
固定資産除却損	33	2
投資有価証券評価損	75	184
減損損失	3	122
ゴルフ会員権評価損	19	25
その他	15	0
特別損失合計	148	334
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	945	△680
法人税、住民税及び事業税	677	530
法人税等調整額	△62	238
法人税等合計	614	769
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	331	△1,449
少数株主利益又は少数株主損失(△)	29	△75
四半期純利益又は四半期純損失(△)	301	△1,373
少数株主利益又は少数株主損失(△)	29	△75
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	331	△1,449
その他の包括利益		
他有価証券評価差額金	△567	△134
繰延ヘッジ損益	1	26
為替換算調整勘定	△744	△495
その他の包括利益合計	△1,310	△603
四半期包括利益(内訳)	△978	△2,053
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,010	△1,984
少数株主に係る四半期包括利益	31	△68

(注) 記載金額単位未満の端数については、ち捨ての方法で表示しております。

当第2四半期(累計)業績の概要

当社グループは、経営理念である「すべてはお客様のために」を基本方針として、グループ全体の連携を強めながら、既存大手顧客への拡販やLED照明などの環境関連商品の拡販等に注力し、また子会社の株式会社エー・ディーデバイスが平成24年7月1日付けにて車載市場に精通しているエーエスデバイス株式会社の吸収合併を行うなど積極的な営業活動に注力してまいりました。その結果、車載関連や海外におけるEMSの売上高が拡大しましたが、民生機器向け電子部品・半導体や国内アミューズメント関連ビジネスの受注減少及びコンシューマ向け情報機器ビジネスやソフトウェアビジネスの低迷により、第2四半期連結累計期間における売上高は103,845百万円(前年同四半期比10.7%減)、営業損失は470百万円(前年同四半期は営業利益771百万円)、経常損失は355百万円(前年同四半期は経常利益895百万円)となりました。また、業績不振子会社における固定資産の減損処理及び繰延税金資産の取崩しなどを行ったことにより、四半期純損失は1,373百万円(前年同四半期は四半期純利益301百万円)となりました。

セグメント別売上高



■情報機器事業

既存商品の拡販や新材の発掘に努めましたが、パーソナルコンピュータの販売の落ち込みや家電量販店や専門店向けメモリーカード関連商品の商流変更の影響などにより売上高が減少した結果、売上高は19,270百万円(前年同四半期比27.4%減)となり、セグメント損失は337百万円(前年同四半期はセグメント損失111百万円)となりました。

■ソフトウェア事業

アニメーションなどのCG制作やアミューズメント機器用画像処理ならびにゲームソフト及び新規新材の販売に注力しましたが、ゲームソフトの売上高減少や発売時期の延期などにより、売上高は1,491百万円(前年同四半期比2.7%減)、セグメント損失は403百万円(前年同四半期はセグメント利益163百万円)となりました。

■電子部品事業

車載関連向け電子部品や半導体及び海外における事務機器や空調機器向けなどのEMSビジネスの売上高の伸長がありましたが、国内におけるアミューズメント機器向け電子部品や半導体などの受注が減少した結果、売上高は77,783百万円(前年同四半期比6.7%減)となり、セグメント利益は343百万円(前年同四半期比46.0%減)となりました。

■その他事業

リサイクル関連事業やゴルフ用品販売事業などが回復をみせた結果、売上高は5,299百万円(前年同四半期比11.9%増)となりましたが、業務拡大にともなう販売管理費の増加などによりセグメント損失は27百万円(前年同四半期はセグメント利益142百万円)となりました。

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (平成24年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成24年9月30日現在)	科 目	前期末 (平成24年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成24年9月30日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	94,374	83,811	流動負債	59,474	53,170
現金及び預金	9,775	8,985	支払手形及び買掛金	41,748	35,910
受取手形及び売掛金	55,979	48,338	短期借入金	11,084	12,129
有価証券	74	77	未払法人税等	1,082	564
商品及び製品	17,104	16,576	その他	5,558	4,566
仕掛品	334	664	固定負債	7,303	6,456
原材料及び貯蔵品	4,115	4,618	長期借入金	2,833	1,934
繰延税金資産	861	683	退職給付引当金	1,579	1,614
その他	6,272	3,937	役員退職慰労引当金	1,399	1,350
貸倒引当金	△144	△70	その他	1,491	1,557
固定資産	20,340	21,149	負債合計	66,777	59,627
有形固定資産	9,487	9,843	純資産の部		
建物及び構築物(純額)	2,945	3,083	株主資本	49,751	47,963
機械装置及び運搬具(純額)	1,492	1,568	資本金	12,133	12,133
工具、器具及び備品(純額)	926	946	資本剰余金	13,912	13,912
土地	4,077	4,121	利益剰余金	25,038	23,250
建設仮勘定	45	123	自己株式	△1,333	△1,333
無形固定資産	2,245	2,499	その他の包括利益累計額	△3,341	△3,951
のれん	253	883	その他有価証券評価差額金	△653	△790
ソフトウェア	800	468	繰延ヘッジ損益	△24	1
その他	1,191	1,147	為替換算調整勘定	△2,663	△3,162
投資その他の資産	8,607	8,806	新株予約権	0	0
投資有価証券	4,032	4,153	少数株主持分	1,526	1,321
繰延税金資産	341	543	純資産合計	47,936	45,333
その他	5,911	5,434	負債純資産合計	114,714	104,961
貸倒引当金	△1,678	△1,324			
資産合計	114,714	104,961			

(注) 記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期(累計) (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期(累計) (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,446	3,293
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,449	△3,695
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,735	△258
現金及び現金同等物に係る換算差額	△383	△129
現金及び現金同等物の増減額	△1,544	△789
現金及び現金同等物の期首残高	11,796	9,695
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,251	8,905

(注) 記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

第45期の通期業績見通し

通期の業績予想につきましては、第3四半期以降、車載関連など成長市場への販路拡大やEMSビジネスの伸長による利益の回復を見込んでおりますが、第2四半期連結累計期間に発生した、固定資産の減損損失及び繰延税金資産の取崩しなどの影響もあり、以下の通りとなります。

《連結業績見通し》

連結売上高	230,000百万円
連結経常利益	1,800百万円
連結当期純利益	300百万円

配当金のお知らせ

当社は、安定的な長期的視点に立った財務体質と経営基盤の強化に努めるとともに、連結業績を鑑みながら株主の皆様に対する安定的かつ継続的な配当の維持を基本方針としております。

当第2四半期末の剰余金の配当につきましては、上記の方針ならびに経営環境を検討した結果、1株当たり15円00銭とさせていただきます。

なお、期末配当金につきましても上記方針に基づき、第2四半期末と同額の15円00銭とし、年間30円00銭とさせていただきます。

本 社 TEL. 03-4455-3111

電子事業部

電子事業部 TEL. 03-4455-3134
 北関東営業所 TEL. 048-667-3321
 北陸営業所 TEL. 076-262-0711
 関西営業所 TEL. 06-6105-0430
 名古屋営業所 TEL. 052-746-6480
 新横浜営業所 TEL. 045-473-7321
 浜松営業所 TEL. 053-457-1661
 福岡営業所 TEL. 092-282-1140
 仙台営業所 TEL. 022-722-7410
 京都営業所 TEL. 075-353-4551
 新潟営業所 TEL. 0258-38-8351

海外事業部

海外事業部 TEL. 03-4455-3126

特販事業部

特販事業部 TEL. 03-4455-3279
 特販第三部 TEL. 06-6105-0430

営業推進事業部

営業推進事業部 TEL. 03-4455-3124
 販売促進第四部 TEL. 06-6105-0430

特機事業部

特機事業部 TEL. 03-4455-3121
 特機第二営業部 TEL. 052-746-6481

EMS事業部

EMS事業部 TEL. 03-4455-3120

技術統括部

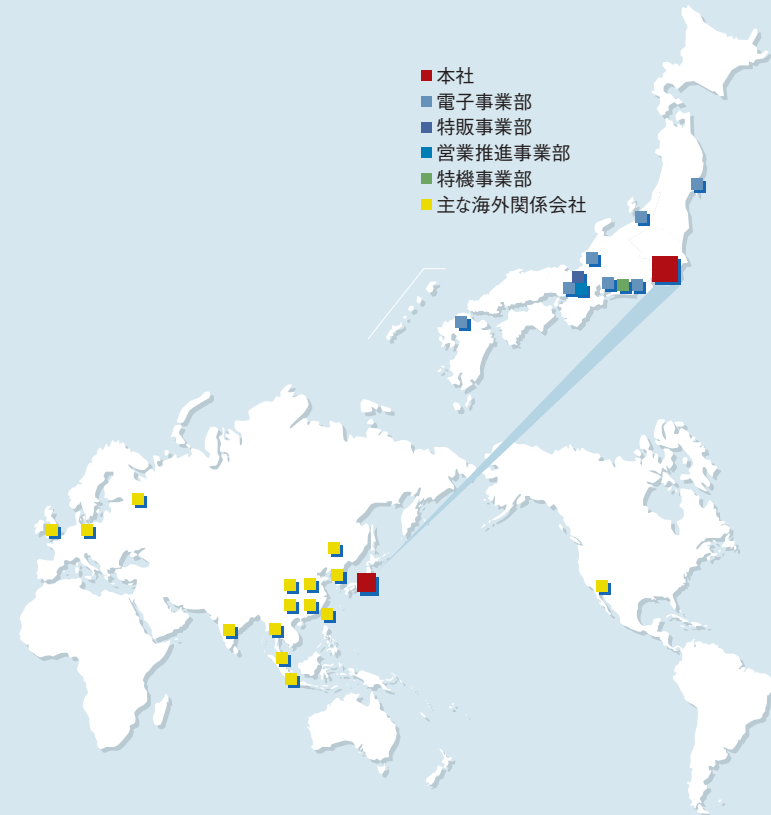
技術統括部 TEL. 03-4455-3128

Gr事業戦略室

Gr事業戦略室 TEL. 03-4455-3119

主な国内関係会社

加賀テック株式会社 TEL. 03-4455-3108
 加賀デバイス株式会社 TEL. 03-4455-3150
 加賀ソルネット株式会社 TEL. 03-4455-3100
 加賀コンポーネント株式会社 TEL. 03-4455-3161
 株式会社イー・ディー・デバイス TEL. 03-4455-3106
 加賀クワイエット株式会社 TEL. 03-4455-3157
 マイクソリューション株式会社 TEL. 03-4455-3155
 株式会社デジタルメディアラボ TEL. 03-4455-3104
 加賀スポーツ株式会社 TEL. 03-4455-3172
 加賀ハイテック株式会社 TEL. 03-4455-3188
 加賀アミューズメント株式会社 TEL. 03-4455-3182
 株式会社ワークビット TEL. 046-261-3228
 株式会社エスアイエレクトロニクス TEL. 03-4455-3270
 エー・ディ・エム株式会社 TEL. 06-6244-2701
 株式会社サイバーフロント TEL. 03-5718-6370



主な海外関係会社

KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED
 KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD
 KAGA (KOREA) ELECTRONICS CO.,LTD.
 KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO.,LTD.
 加賀電子(上海)有限公司
 KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED

KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED
 KAGA ELECTRONICS (USA) INC.
 加賀電子(大連)有限公司
 KAGA (EUROPE) ELECTRONICS LTD.

株式の状況

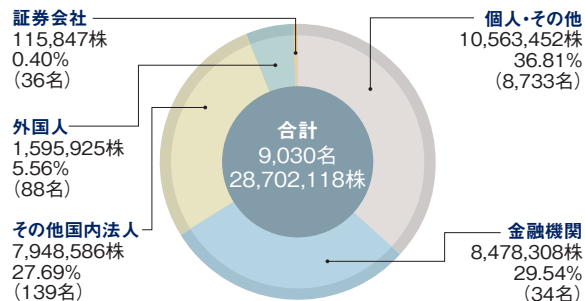
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	28,702,118株
単元株式数	100株
株主数	9,030名

大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,194	11.13
株式会社三共	2,909	10.14
株式会社OKOZE	1,690	5.89
加賀電子従業員持株会	1,242	4.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,182	4.12
株式会社みずほ銀行	950	3.31
資産管理サービス信託銀行株式会社	899	3.13
塚本 勲	793	2.76
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	680	2.37
日本生命保険相互会社	535	1.86

- (注) 1. 持株数は千株未満を切捨てて記載しております。
 2. 上記のほか、自己株式が1,105千株あります。
 3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、資産管理サービス信託銀行株式会社及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社の持株数は、信託業務によるものであります。

所有者別株式分布状況



会社概要

設 立	昭和43年9月12日
資 本 金	121億3,354万円
従 業 員 数	624名（男435名・女189名）
平 均 年 齢	37.0歳（男39.4歳・女31.5歳）
事業の内容	当社は、電子機器用エレクトロニクス部品の企画、開発、製造、仕入販売、コンピュータ及び周辺機器・関連部品・付属品・ソフトウェアなどの仕入販売ならびに輸出入を主な業務とし、これに付帯する業務も営んでおります。

役 員

代表取締役会長	塚 本 勲
代表取締役社長	塚 本 外茂久
取締役副社長	門 良 一
専務取締役	下 山 和 一 郎
専務取締役	高 橋 信 佐
専務取締役	高 師 幸 男
常務取締役	寛 新 太 郎
取 締 役	川 村 英 治
常 勤 監 査 役	石 川 正 弘
常 勤 監 査 役	隅 野 起 久 夫
監 査 役	佐 瀬 正 俊
監 査 役	田 中 雄 一 郎

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店 及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞(東京)に掲載します。 公告掲載URL http://www.taxan.co.jp/

表紙・絵

宮坂 健 Ken Miyasaka



《花の塔》

暖かで平和な場所、時間も流れては往かない。
花の中の天に伸びる塔、いつか、ここでの約束
その思いを胸に私たちは今を生きている。

作者略歴：1949年生まれ
安井賞展、浅井忠記念賞展、
セントラル油画大賞展、
日本青年画家展等

個 展：日本橋三越等
著 書：『地球、旅の記憶』

KAGA ELECTRONICS CO.,LTD.

〒101-8629 東京都千代田区外神田三丁目12番8号 住友不動産秋葉原ビル
TEL.03-4455-3111 (代) FAX.03-3254-7131
<http://www.taxan.co.jp/>
東証一部：証券コード 8154

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

中間配当金支払いに関する取締役会決議通知はがきの 郵送廃止のお知らせ

弊社の中間配当金の支払いに関する取締役会決議につきまして、昨年まで株主様に郵便はがきにて、ご通知申しあげておりましたが、本年より、はがきの郵送を廃止し、当社ホームページにてご案内いたしております。

○加賀電子株式会社ホームページ

決算短信URL：<http://www.taxan.co.jp/ir/account.html>

ニュースリリースURL：<http://www.taxan.co.jp/news/index.html>



JISO 14001:1996
登録番号 JSAE594

EMS Accreditation
認定番号 NEC005